

高校国語 専門問題例

例一 次の文章（近現代文）を読んで、(1)～(7)に答えなさい。

（本文省略）

- (1) 波線部①～③の漢字には読みがなを書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。
- (2) 二重傍線部 a・b・c の品詞名を書きなさい。
- (3) 空欄 X・Y・Z にそれぞれあてはまる最も適切な言葉を次のア～カから選び、記号で答えなさい。
ア 同一 イ 共通 ウ 皆無 エ 全体 オ 唯一 カ 差異
- (4) 傍線部 A 「こういう問題は生じなかった」のはなぜか。指示語の内容を明らかにして、五十字以上六十字以内で答えなさい。
- (5) 傍線部 B 「このような原始日本の文化」について説明した次の文の空欄 P・Q に、それぞれ漢字二字を本文中から抜き出して補いなさい。
日本に固有の（P）なものではなく、（Q）的と言えるほどの性質を持つもの。
- (6) 傍線部 C 「侘び」という概念を、筆者はどのようなものにとらえているか。十五字以内で答えなさい。
- (7) 本文において、筆者が評価する、伊勢神宮における建築の特徴について、六十字以上七十字以内で答えなさい。

（H 28）

例二 次の文章は、藤原実資について書かれた一節であり、本文中の「この殿」、「頭中将」、「頭」は藤原実資のことである。これを読んで、(1)～(7)の問いに答えなさい。（設問の都合上、表記を改めた箇所がある。）

この殿、若くより賢人のひとすぢのみならず、思慮のことに深く、情け、人にすぐれておはしけり。円融天皇の御時、頭中将にて、殿上に候ひ給ひけるに、式部丞藏人藤原貞高といふ人、大盤につきたるが、頓死したりけるを、頭、奉行にて、奏司下部を召して、かき出させられけるに、「何方より出づべきぞ」と申しければ、「東の陣より出づべきぞ」と行はれけるに、藏人所の衆、滝口、出納、御倉、女官、主殿司、下部どもにいたるまで、そこらのものども、これを見むとて、東の陣へ競ひ集まるほどに、「殿上の畳ながら、西の陣より出せ」とのたまひければ、ひき違へて、西より出しければ、見るものなくて、陣の外へ出でたるを、父三位来て、むかへ取りてけり。

そののち、十日ばかりして、頭中将、夢に藏人、内に参りあひぬ。「死の恥を隠させ給ひたる、よにも忘れがたし。東より出でましかば、多くの人に見えなまし」といひて、手をすりて、泣く泣く喜ぶと見えけり。

公任卿、この殿を賀にとりて、はじめに入れ申されける時、朗詠上下卷えらびて、置物の厨子に置かれたりける、ゆゆしき賀引出物にこそ。

（『十訓抄』より。）

〔注〕「大盤」 食事に乗せる台 「奉行」 命を受けて物事を執行する人

「奏司下部」 奏司は曹司（宮中にあった官人や女官の部屋）、下部は下働きの者

「藏人所の衆、滝口、出納、御倉、女官、主殿司」 いずれも下級役人

「父三位」 藤原貞高の父、藤原実光 「公任卿」 藤原公任 「賀」 媚

(1) 傍線部①の敬語について説明した次の文の A～D にあてはまる語句を、ア～キから選び、記号で答えなさい。

・「候ひ」は A への敬意を表す B で、「給ひ」は C への敬意を表す D である。

ア 円融天皇 イ 藤原実資 ウ 藤原貞高 エ 作者
オ 尊敬語 カ 謙讓語 キ 丁寧語

- (2) 傍線部②～④の漢字の読みを現代仮名遣いで答えなさい。
- (3) 傍線部⑤を現代語訳しなさい。
- (4) 傍線部⑥は、藤原公任が朗詠に適合している和歌や漢詩を編纂した歌謡集のことである。その作品名を「朗詠」を含む漢字五字で答えなさい。
- (5) 傍線部⑦について説明した次の文章の[E]、[G]に入る二字ずつを答えなさい。ただし、[E]・[F]には漢字、[G]にはひらがなが入る。
- ・「ゆゆしき」は「E」な」と訳せることから、作者がこの引出物をどう評価していたかが分かる。係助詞「こそ」によって「F」され、文末には「G」が補える。
- (6) 本文では、藤原実資が、「思慮」、「情け」も秀でていたと書かれているが、急死した藤原貞高を外に運び出す際、(a)どのような思慮深い行動を、(b)どのような情け深い理由から行ったか。本文中の言葉を使ってそれぞれ二十字以上三十字以内で答えなさい。
- (7) 「十訓抄」と同時代・同ジャンルの作品をア～オから選び、記号で答えなさい。
- ア 水鏡 イ 十六夜日記 ウ 毎月抄 エ 古今著聞集 オ 日本霊異記

(H 29)

例三 次の文章を読んで、(1)～(6)に答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

有_下上書請_レ去_二倭臣_一者。曰、「願_{ハク}陽怒_{リテ}以_テ試_レ之_ヲ。執理不屈_〃者、直臣也。畏_レ威順_レ旨_ニ者、倭臣也。」上曰、「吾自_レ為_レ詐_ヲ、何以_レ責_メ臣下之直_ヲ乎。朕方_ニ以_テ至誠_一治_メ天下_ヲ。」

或_レ請_フ重_ク法_ヲ禁_ゼ盜_ヲ。上曰、「当_ニ去_レ奢_ヲ省_キ費_ヲ、輕_ク徭_ヲ薄_ク賦_ヲ、選_ニ用_ス廉_{吏_ヲ}。使_レ民衣食有余_ニ、自_レ不_レ為_レ盜_ヲ。安_ク用_レ重_ク法_ヲ邪_ト。」自_レ是_レ

数年之後、路_ニ不_レ拾_ハ遺_ヲ、商旅野宿_ス焉。(『十八史略』より。)

(注) 倭臣⇨こびへつらう臣 陽⇨うわべだけ見せかけること 徭・賦⇨夫役と租税 商旅⇨行人や旅客

- (1) 波線部①～③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。ただし、③は送り仮名を補うこと。
- (2) 傍線部Aに適切な訓点をつけなさい。
- (3) 傍線部Bを書き下し文にしなさい。ただし、「当」は送り仮名を省略してある。
- (4) 傍線部Cが「人民の生活にゆとりを持たせたなら」という意味を表す文になるように、書き下し文にしなさい。
- (5) 傍線部Dを口語訳しなさい。
- (6) 傍線部Eのようになった理由を、本文に即して五十文字以上六十文字以内で答えなさい。

例四 高等学校学習指導要領「国語」及びそれに関連する事項について、(1)～(3)に答えなさい。

(1) 次の文は、「第3 現代文A」及び「第6 古典B」それぞれの「1 目標」である。文章中の①～⑥にあてはまる語句を答えなさい。

【第3 現代文A】
近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の①に対する理解を深め、②読書に親しみ、国語の向上や③を図る態度を育てる。
【第6 古典B】
古典としての古文と漢文を④を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての⑤を深めることによって人生を⑥態度を育てる。

(2) 次の文は、「第1 国語総合」「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」「(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。」として挙げられている事項である。①～⑤にあてはまる語句を後から選び、記号で答えなさい。

ア ①に①に①に
イ ③した②に
ウ ④を⑤を
ア ①に①に①に
イ ③した②に
ウ ④を⑤を

- g a 発表 記録
- h b 討論 反論
- i c 展開 状況
- j d 調査 引用
- k e 説明 資料
- l f 原因 目的

(3) 次の文は、「第2 国語表現」「2 内容」「(1) 次の事項について指導する。」に挙げられている事項である。①～⑥にあてはまる語句を答えなさい。

ア 話題や題材に応じて情報を収集し、①して、自分の考えをまとめたり深めたりすること。
イ 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、②の妥当性を判断しながら話し合うこと。
ウ 主張や③などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くこと。
エ 目的や場に応じて、④や文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること。
オ 様々な表現についてその効果を⑤したり、書いた文章を互いに読み合ったりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
カ 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の⑥などについて理解を深めること。

